

産地を支える担い手の育成 就農希望者を育てる研修体制の整備と育成の取組

1 普及活動のねらい

令和3年にあまイチゴ組合に研修機関を立ち上げて就農希望者の育成に取り組み始め、令和4年6月から1期生の研修を開始した。関係機関と協力して2年間の研修カリキュラムに沿って栽培技術、知識及び就農計画の作成指導等を実施した。その結果、令和6年6月に1期生がイチゴ農家として愛西市で農業経営を開始して、新たな担い手として育成する。また、1期生に続く研修生を受け入れ、継続的なイチゴ新規参入者の確保を進めている。

2 普及活動の成果

1期生は中古のハウスや機械類と補助事業による装置類の整備を組み合わせ、青年等就農資金や経営発展支援事業を利用して6月から10a規模で経営開始できた。また、経営開始資金の活用支援や巡回、セミナーへの参加誘導等、継続的に助言等を行って経営の早期安定に向けて支援を継続している。2期生には受入農家の体制を改善して実習を進めるとともに、座学による基本技術の習得を実施している。

3 普及活動の内容

1期生には専任農家による実践的な技術・知識の習得支援及び就農準備に向けた経営計画細部に関する打ち合わせ等をJA、市等と緊密な連携のもとに助言や支援を行った。前年度中に認定を受けた青年等就農計画に基づいて資金利用の事務手続き指導や経営開始時及び就農後の栽培管理に必要な留意事項等を助言した。更に就農後も巡回や補助事業対応を活用して助言を継続している。また1期生での経験を活かして、6月から2期生に対しての研修運営を支援している。



写真1：就農後の現地巡回



写真2：2期生の座学実施の状況

重点課題名	1 海部地域の多様な担い手の確保・育成
普及事項名	(2) 技術・経営に関する基礎知識の習得
	3 スマート農業技術の活用による野菜産地の育成
	(2) イチゴの就農に向けた研修の実施と評価